

反社会的行動は目に余る 暴論で世論操作を企む危険な企業 『東京新聞』がJR東海を徹底批判！

9月29日付『東京新聞』の「本音のコラム」は、「JR東海という怪物」と題して、JR東海を徹底的に批判しています。

列車に跳ねられた認知症の老人の遺族から損害賠償をむしり取ったり、一企業の問題で済まされないリニア建設を強引に進めている実態を取り上げています。

極めつけは、『WEDGE』で展開している暴論といえる原発推進論を、NHK人事を利用して世論操作を企んでいることです。この『WEDGE』は、何ら根拠のない理論を展開して、原発の再稼働を強く迫っています。まさに、最低・最悪の雑誌です。多くの常識ある人たちから、『WEDGE』批判が相次いでいます。

JR東海は、このような批判に耳を傾け、常識ある行動を取るべきです。

27 特報 11版 2013年(平成25年)9月29日(日曜日)

東海道新幹線といついでこ取りで国鉄民営化の恩恵を一手に享受するJR東海だが、このところの反社会的行動は目に余る。認知症の老人が線路に入りひかれた事故について、遅延に伴う損害を遺族に賠償請求して、先月一審で勝訴した。他方、新幹線でもうけた金でリニア建設計画を立て、事業に突き進むようにしている。環境への影響や電力供給の問題を考えると、これは一企業の投資と放置するわけにはいかない。さらに安倍晋三首相と親密な同社会長は、同社出身のNHK会長の後継に、自らの盟友を据えようと画策していると報じられている。仮にこれが

本音の
コラム



山口 俊二

JR東海という怪物

実現すれば、NHKがJR東海傘下の雑誌『WEDGE』の論調に染まることにもなる。同誌は最近原発再稼働の旗振りをして注目を浴びている。裁判では一つの私的法人として、窮状にある遺族を訴え、国策決定の世界では、政財界における影響力をフルに使って巨額大開発、原発推進、さらに世論操作まで狙う。二つの顔を使い分けるこの身勝手さはいったい何なのだ。不幸の底にある遺族から賠償金をむしり取るなら、守銭奴企業として公の世界では一切口をつぐむのが筋道である。JR東海は、新幹線という国民の財産を譲り受けて大もうけしているという負い目を忘れてはならない。乗客は経営者の政治道楽のために切符を買っているのではない。(北海道大教授)

『WEDGE』は
最低・最悪の雑誌だ！